

2021.05.09. 聖書の学び

深刻な問題を解決する。

### 新約聖書ピレモンへの手紙 8～14 節

おはようございます。第二礼拝へようこそ。日曜日の朝は、二つの礼拝を行っています。第一礼拝は「聖書・預言のアップデート」で二つ目は、聖書の一節一節を学ぶ礼拝です。今日は、ピレモンへの手紙です。これはとても短い手紙です。今日の箇所は 8 節から 14 節です。ぜひ、その箇所をお開きになって、学びに参加して下さい。その間に、いくつかのことをお伝えしたいと思います。今週の木曜日は、イザヤ書の学びの代わりに、特別なお楽しみがあります。第一礼拝に参加された方は日本から来られた JB さんにお会いすることができました。木曜日の夜には、彼女と私、JD と JB がここで話をします。そして、彼女が自分のとても力強い証をし、そして、神が日本で何をされているのかを話してくれます。彼女はインターナショナル・ミニストリー・チームの一員で、英語から日本語への翻訳を担当しています。木曜日の夜 7 時にこの礼拝堂で開催しますので、皆様のご参加を心よりお待ちしております。そして 7 時 30 分からライブ発信をお届けします。また、お母さん方にもメールを送りたいと思います。祝福された幸せな母の日になりますように。こんなことを言っただけでは申し訳ないのですが、母の日が辛いこともあると思います。特に、お母さんがいない人や、お母さんとの関係がギクシャクしている人にとっては、母の日は必ずしも幸せな日ではないでしょう。母の日は、子どもを持つことができないお母さんにとっては辛い日になるかもしれませんが、でも、私たちは母の日を祝いたいと思っています。私たちはお母さんに感謝したいのです。文字通り、あなた方なしではやっていけないのです。だから、お母さんたちに拍手を送りましょう。私たちはあなた方をとても愛していますし、とても感謝しています。それでは、8 節から御言葉に入ります。ここにおられる方で、もし可能であればお立ちください。私が読むのでついてきて下さい。無理な方は、座ったままで結構です。使徒パウロは聖霊によってピレモンに手紙を書いています、8 節でこう言っています。

#### ピレモンへの手紙

「ですから、あなたがなすべきことを、私はキリストにあって、全く遠慮せずに命じることもできるのですが、」—8 節—

「むしろ愛のゆえに懇願します。このとおり年老いて、今またキリスト・イエスの囚人となっているパウロが、」—9 節—

先週、その話をしましたね。

「獄中で生んだわが子オネシモのことを、あなたにお願いしたいのです。」—10 節—

「彼は、以前はあなたにとって役に立たない者でしたが、今は、あなたにとっても私にとっても役に立つ者となっています。」—11 節—

「そのオネシモをあなたのもとに送り返します彼は私の心そのものです。」—12 節—

「私は、彼を私のもとにとどめておき、獄中にいる間、福音のためにあなたに代わって私に仕えてもらおうと思いました。」—13 節—

「しかし、あなたの同意なしには何も行いたくありませんでした。それは、あなたの親切が強いられたものではなく、自発的なものとなるためです」—14 節—

お祈りしましょう。よろしければご一緒におねがいします。愛する天の父よ、私たちは今日、あなたの御言葉を、理由があつて、この御言葉を前にしています。あなたが私たちに見せたい、語りたいと考えてお

られる何かがここにあり、私たちはそれが何であるかを知りたいのです。主よ、私たちは、あなたに細心の注意を払い、私たちの心が迷わないよう、御霊によって思いを留めていただき、あなたが御言葉を通して、私たちの人生に語られようとされていることを聞く耳を持てますように。主よ、あなただけがおできになる方法で、そしていつも誠実であられるように、その小さな御声でお語りください。あなたのしもべは聞いています。主よ、お語りください。イエスの名のもとに。アーメン、アーメン。ご着席ください、ありがとうございます。

今日は、私たちの人生に現れる深刻な状況を解決するために、どのようにアプローチをすべきかについて、お話ししたいと思います。解決すべき問題が、何もないときってありますよね？ さて、今日の箇所では、使徒パウロは、最も深刻な問題を扱っています。最も深刻な問題とは、先週紹介したように、この逃亡した奴隷のことで、当時、このようなことをすると死罪でした。そして、この奴隷オネシモは、主人のピレモンから逃げただけでなく、主人から盗みも働いたのです。そして、彼は逃げられると思って2,400キロも離れたローマまで逃亡したのです。そして、その経緯は分かりませんが、なぜかオネシモは、よりによって使徒パウロと遭遇することになるのです。ある人は、オネシモがまた盗みを働いて捕まり、逮捕されて監獄に入れられた可能性が高いと言っています。ただの監獄ではなく、偶然にも、パウロが入っていた監獄と同じところだったのです。そして、パウロが囚われていた同じ監獄というだけでなく、おそらく同じ独房だったのです。そこに、この新しい入居者がやってきたのです。「名前は何だ？」「オネシモだ、お前は？」「パウロだ。」「オネシモ、何をしたのだ？」「ああ、盗みだ。パウロ、お前は？」「宣教だ....ところでオネシモ、どこの出身だ？」「俺は、エペソだよ。」「そうなんだ！ では、ピレモンという名の男を知ってるか？」「はい、彼は私の主人でした。彼から盗みをして、彼から逃げたので、だから私はここにいるのです。」そして、パウロは彼をキリストに導くのです。驚きましたか？ しかし、今度は深刻な問題が発生しました。彼の主人であるピレモンと、和解しなければならないのです。今日の箇所で読んだところによると、パウロはオネシモを本当に愛し、この男を導き、友となったようです。パウロは、聖霊によって、神に敬意を払うやり方で解決と和解をもたらすために、過ちを正す正しい方法を、私たちの手本として示しています。以下は、私が "成功のレシピの三つ要素"と呼んでいるものです。言い方が良くないですが、私たちの信仰生活における深刻な状況を解決するための、成功のレシピです。最初のものは、8節から10節にあります。それは「柔和」です。興味深いことに、パウロには、ピレモンにオネシモとの和解を命じる、神からの権限があることが分かっているが、それを実行しません。彼は代わりに愛に基づいて訴え、そのように言っています。ところで、ピレモンもそれを知っています。これもまた使徒パウロの本来の姿と言えるでしょう。「ピレモン、私には権限があります。しかし、聞いてください、このような状況です。なので、あなたに自分の意志で決断してもらいたいです。」「ですから、私は基本的に、私自身をあなたに委ねるつもりです。」「私は、最も道徳的で、へりくだった方法を取るつもりです。」そのようにすることにおいて、パウロは、柔和さの見事な例を示しているのです。私は、何よりもまず、人生の深刻な状況に直面したときの私たちの姿勢は、「柔和」でなければならないと思います。柔和さが、弱さと同義だとは決して思わないでください。これ以上の真実はありません。柔和とは、力、権力、権威を放棄することです。ある人が適切に言ったように、「柔和とは、制御された強さ」です。一緒に考えてみてください。イエス....柔和さが具現化したお方です。このお方は神の化身であり、全権、全知、全存在でありながら、柔和なお方です。神の権威を、一瞬にして行使することができたのに、そうはされなかったのです。パウロがここでやっている事はそれです。制御された強さです。これこそが、パ

ウロがピレモンに対して示していることです。さらに進む前に、指摘しておきたいことがあります。それは、「柔和」と「謙虚」の違いです。似ていますが、同義ではありません。柔和さは主に、他人に対する態度で示され、謙虚さは、自分に対する態度で示されます。このように考えてみてください。謙虚さとは、自分を必要以上に高く評価しないことです。これが、自分自身の態度に関係した謙虚さです。謙虚さとは、自分のことで一杯にならないこと。それが、謙虚さです。柔和とは、他者との関係において、相手に向かって謙虚さを示すことです。それが「柔和」と「謙虚」の違いなのです。この二つは、両立するものだと言ってもいいでしょう。特に、問題や状況を解決するために、他の人に対する私たちの態度やアプローチと、密接に関係しています。これは、11-13節の二つ目の言葉にもつながっています。それは、「無私無欲の心」です。当たり前のことを言っているのはわかっていますが「無私無欲」とは、利己主義を否定する言葉です。私は、利己主義の学位を持っています。利己主義についての本を書くことができます。あなたがたもそうでしょうか？ 私を偽善者のように見ないでくださいしかし、無私無欲となると問題があります。これは、私にとって異質なものです。それは、私の中にある罪の性質とは正反対のものです。なぜなら、自分のこととなると…まあ、自分のことしか考えられません。ある人が巧妙に言い表しました。それは、「私の、私が、私は、という汚れた三位一体」そしてそれは、人と話すときにも現れますよね？ あなたは、自分が、何について話したいか知っていますか？ 自分自身のことです。そして、自分の話が終わったら礼儀として、「自分のことを話すのはもう十分」と言うかもしれません。「あなたが、私のことを話をしてください。」利己主義は 陰湿です。無私無欲の心、自分に死ぬこと、自分を否定することが必要です。ここでパウロは、むしろオネシモを助けてくれる存在として、手元に置いておきたいと、はっきり言っています。実際に彼は、「あなたが私と一緒にいたときのように、私を助けてくれるから、オネシモを残しておきたいのです。」とまで言っているのですから、興味深いです。つまり、ピレモンは、ある時点まで、パウロのために一緒にいて、彼の助けになっていたということです。そして今、オネシモがいて、どうやらパウロの人生においてピレモンに代わり、大きな祝福、助けとなっていたようです。彼は、とても役に立っています。いくつかの翻訳では「有益」と表現されていますね。彼の名前がそういう意味なので、ちょっと皮肉ですね。オネシモとは、「役に立つ」、「利益をもたらす」という意味です。これは聖なる言葉遊びのようなもので、彼がピレモンに手紙を書き、こう言っています。

「ピレモン、オネシモがあなたの所にいたとき、彼はあなたにとって有益でなかったことは知っていますが、今、彼は、私と、あなたにとっても有益な存在です。」

しかし、ここでパウロが、またしても真の姿を見せます。彼は正しい、へりくだった姿勢で、オネシモがピレモンの役に立ち、祝福となると知っていたので、無私無欲な心でオネシモを送り返す決断をします。それは、誰かを自分よりも大切な存在とみなすことです。

「ピレモン、オネシモは私にとって恵みの存在です。しかし、私は、あなたの必要を自分のものよりも優先します。」

ホォ、なんてすごいんでしょう。私にはキリストのように聞こえますが、あなたはそう思いませんか？ 自分よりも他人の方が大切だと考える。パウロのその言葉を聞いたとき、私は自分に言いかけました「慎重にやろう、慌てないで…。」「自分よりも大事?!」まずは、自分と同じくらい大事だということから始めよう。そのレベルなら、やれるかもしれない。しかし、自分より大事だって?? それは、わからない。ちょっと無理な注文ですね。それが簡単なことかどうかはわかりませんが、しかし、それがパウロがしていることです。つまり、よく考えてみると、ピレモンは、投獄され堀の中にいる人間ではなく、パ

ウロ自身がそうなのです。つまり、もし私たちがこれを評価し、検討し、決定するとしたら、次のようになります。”誰が、より助けを必要としているか？” 確実にパウロです、鎖に繋がれていますからね。ところで、言っておきたいことがあります。重要なことで、現代の刑務所について考えるとき、それは当時のものとは全く違います。彼が「私は鎖につながれている」と言ったとき、それが何を意味するかわかりますか？ パウロはローマの看守に、24時間鎖でつながれていたのです。まったく居心地が悪いです。厄介です。私の言っている意味がわかると思いますが。そして看守は、交代で囚人と鎖で繋がっていました。誰かが、パウロの当番の看守のために祈っていたに違いありません。なぜなら、彼は救われることになるからです。これについては、「聖書・預言アップデート」でも少し触れました。現代でも、牧師が逮捕されたり、刑務所に入れられたりしていますよね。おそらく今日、繰り返す必要があるのだと思います。パウロがこの箇所、二回言及しているので、とても重要なことです。「私はキリストの囚人であって、ローマの囚人ではありません」と言っています。パウロは、政治的に、誰が支配しているからではなく、主権的に誰が王座に着いておられるかゆえに、自分は牢獄に入っているのだと知っていました。そして、それがすべてを変えます。パウロがそこにいるのは、イエス・キリストが彼をそこに置くことを許されたからであり、イエス・キリストは、パウロがそこにいる間に人々を神のもとに導くことを望まれていたからです。そして、彼の獄の中での時間を活用して、私たちが親しみを込めて "獄中書簡" と呼んでいる四つの手紙も書かせたのです。しかし、彼は無私無欲の心で、その柔和さと謙虚さで、自分の権利を手放すことを望んでいます。彼には、オネシモを手元に置いておく権利がありました。また、ピレモンに対して、奴隷としてではなく、兄弟として復帰させることを要求し、命令する権利もありました。手紙の後半でそれを見ることになるでしょう。残りの時間を、14節の三つ目の言葉に費やしたいと思います。その理由はすぐにわかると思います。パウロがここでやっていることの重要性を、いくら強調しても、し過ぎることはないと思います。「従順であること」彼はピレモンに従っているのです。これはとても重要なことです。私たちが話しているのは、使徒パウロのことですよ。「私があなたに従うのではなく、あなたが私に従うべきだ。」パウロは、私たちが考えるような方法ではなく、そのことについても述べているのですが、「ピレモン、忘れてはいけない、あなただけをキリストに導いたのは私だ。あなただけが救われたのは、私があなたに福音を伝えたからだ。」どうですか？ 「だから、私には、あなただけをすべきかを伝える権威があり、あなたはそれに基づいて行動しなければならない。」我々は、権威への敬意がない時代に生きてるので、これは理解しがたいと思います。パウロの時代は、そんな時代ではありませんでした。パウロが彼に手紙を書いて、「私にはこの権威があります」と言ったとき、ピレモンは彼の言うことを正確に理解していました。「そうです、パウロさんの言うとおりです。そして、あなたが言葉を発するだけで、私はそれに従わなければなりません。」なぜなら、当時は、彼らはそうやって権威を尊重していたからです。今の中東に行っても同じです。中東の私のアラブ文化では.....ふーっ...

私は両親のことを考えています。子どもにこんなこと言いませんか？「私のパパやママに、そんな風に話したことはない。」しまいには、もうそんなこと伝えなくなります。そして、あなたも生まれていないでしょう。ですから、母の日おめでとうございませう。ところで、中東の文化では今日に至るまで、年長者、つまり父親が部屋に入ってくると、尊敬の念を示すために全員が立ち上がります。そして、父親が座るまで座らないのです。私が育った文化的背景は、アメリカで育った私の友人たちのものとは正反対でした。年長者、権力者、家長と言ってもいいですが、特に家長が部屋に入ってきて、あなたが一番快適な椅子や上座に座っていたら、彼らにその席を譲ります。もし、立ち上がらなかつたら？ いや、立つでしょう。

信じてください、立ち上がりますよ。でなければ、そこに長くはいられないでしょう。そこから出ていくしかない。しかし、尊敬の念を込めて彼らに自分の席を提供する。そこには権威への服従があります。この話には続きがありますので、お付き合いください。パウロは自分自身を委ね、最終的な決定をピレモンに託しています。「私は、あなたに命令することができます。しかし、それはあなたの決断です。その決断はあなた自身の意志で行ってほしいのです。」私は、このようにして互いに従い合うことが、対立を解決するための最良の方法であると考えています。

結婚生活の話をしていいですか？ ダメですか？ 結婚の話をして。少しだけです。いや、そうでもないかも。エペソ人への手紙5章21節に注目してみてください。これはおそらく、聖書の中でも最も読み飛ばされている節の一つだと思います。その主な理由は、この節の後に続く節にあります。22節は読まないで。今は21節だけです。そこでストップ！ 22節に何と書いてあるかは、知ってますよね。読む必要はありませんね。

「妻よたち、夫に従え、女よ。」すごくゆるい言い換えですね。それが22節です。深い意味があると思いますが、22節の前にあるのは、21節です。そうです、深い、深遠ですよ。つまり、22節の前には21節があるということです。21節で最初に何を言っているのかを知っておいた方がいいですね。あなたもそう思いますか？ 何と言っていますか？

「互いに従い合いなさい。」

「ちょっと待ってください、お言葉ですが、牧師さん、私が一家の大黒柱です。」「そうなんですか？」「ええ、私が家族の責任者です。家の長です。」「わあ...それはどうなのでしょう？」どうか、誤解しないで下さい。私が言っているのは、家庭の長である男性として、神から与えられた権威を放棄することではありません。しかし、私たちの問題が何かわかりますか？ 私たちが権限を持ちたいと思っていることに関しては、私たちはそれを主張します。しかし、より正しい道を歩むことを意味するとき、主導権を握るのはどうでしょうか？ ほら、私たちは"神から与えられた権威"を行使するのは本当に早いですよね？ 私たちが主導権を取ります。「私は家庭内の霊的リーダーです。」「いいでしょう、結構です。では、なぜあなたが先頭に立って従わないのですか？ 従うことに先導する最初の人になりませんか？」ここに例があります。これはもちろん、牧師として私は完璧な結婚生活を送っているので、あくまで理論的な話です。一笑一

ですから、これは理論的な、仮定の話です。夫と妻がいて、対立・言い争いをしているとしましょう。ある牧師が言うには、牧師と妻の場合には、それは"激しい交わり"と呼ばれています。つまり、何度もやり合っているのです。「私？ あなたはどうなの？」「自分のことは棚に上げて！」皆さん、すべて知っていますね？ 夫婦の"激しい交わり"が深まっていく中で、非常に顕著に見られる2つの言葉があります。その2つの言葉が何かわかりますか？それは引き金となる言葉です。使うときは注意してください。

「いつも」、そして、「絶対に」。ああ、なんということでしょう…

「あなたは、いつも〇〇だわ！」「あなたは、絶対に〇〇しない！」

繰り返しますが、私は仮定の話をしています。これは私のことではありません。私は、完璧な結婚生活を送っています。一笑一 つまり、あなたは自分の立場を守っていますが、彼女もそうなのです。彼女が頑なになればなるほど、あなたもそうなるのです。そして、どちらかがキリストへの従順に倣率先して行動するまで、ただエスカレートしていくのです。そしてこう言うのです。

「ごめんなさい。あなたは正しい。私は間違っていた。」

そして、時には、逆に戦い始めることもあります。

「待って、それはダメだ！いや、私が先に謝るんだ！」

そして、どちらがより悔い改めているか、どちらがより従順であるか、どちらが無私無欲かで、再び争いが始まるのです。そうする時、全体の状況が落ち着くのは事実ではありませんか？ 今なら、話すことが出来ます。さあ、話し合しましょう。

「柔らかな答えは憤りを鎮める。」(箴言 15:1 参照)

それは、自分自身を謙虚にすることです。それは、互いに従い合うことです。そしてこう言うのです。

「ここで私はうぬぼれて、自分を守り、あなたを攻撃しています。そして、あなたも自分を守り、私を攻撃しています。そして、それはただ悪化させているだけです。私達は何をしているのでしょうか？」

何をしているか教えてあげましょう。悪魔に足がかりを与えているのです。だからこそ、パウロは聖霊によって

「憤ったままで日が暮れるようであってははいけません。」と戒めているのです。(エペソ 4:26 参照)

私たち夫婦は、完璧な結婚生活の初期にある決断をしました。おそらく結婚生活において、最高の決断の一つだったと思います。もっと早くやっておけばよかったと後悔するとき、私はいつも自分の決断が正しかったと思っています。私たちは、疲れている夜に重い問題を議論するのはやめようと決意しました。なぜなら、私たちには処理能力もなく、恵みも、憐れみもないからです。

主のあわれみは朝ごとに新しい。(哀歌 3:22,23)

良質な睡眠がもたらす効果は興味深いものがありますよね。ですから、朝になったらこの話をしようと同意したのです。一緒になって、悪魔に足場を与えないようにして、少なくとも安眠できるようにしようと。そして、朝起きると、主のあわれみは朝ごとに新しいのです。「時々、昨夜は何を言い争っていたんだっけ？」「今となってはどうでもいいや。」おお、面白いですね。以前聞いた、自慢話をする夫の話を思い出します。「あのね、私たちは怒ったままベッドに入ることはないのさ。」「怒ってベッドに入ることはないの？」「ああ、時に夜中の2時くらいになることもある。でも案の定、妻は手や膝をついて這って来るんだ。」「そして、彼女はこう言うんだ。『ベッドの下から出てきなさい、臆病者！男らしく戦いなさい！』」夫の皆さん、少しだけ話をしましょう。妻の皆さん、これ以上、悪化させないでくださいね。ただ、私は謙虚に提案したいのです。“もし”ではなく、そんな風に堂々巡りを繰り返している状況の“時”は、これを試してみてください。

「あのね、ハニー。君は正しくて、私が間違っている。」とだけ言いましょう。なぜなら、あなたが間違っていて、彼女は正しいのですから。「ちょっと待って、この弱虫男。」「何を言っているのですか？」

「ああ、彼女が悪いことをしたことについては？」いやいや、それは彼女がどんな悪いことをしたかではありません。私は「悪いことをされた」のではなく、私が「悪いことをした」のです。あなたが相手に従い、謙虚になる時、これが起こること、起こるはずのことです。そうすることで、神が私たち夫婦をお造りになったように、妻の皆さんについてもまだ話しますよ。お待ち下さい、次は皆さんの番ですから。

今日は母の日ですが、すぐにお話しします。時計を見てはいけません。まだ時間がありますので、神が私たちの妻を創られ、こう表現してよいならば、接続されました。愛情のゆえに和むためです。そして、キリストが教会を愛し、教会のためにご自身を捧げられたように、私たちは彼女たちを愛するべきなのです。神が彼女たちをそのように造られたのですから、彼女たちのために、抵抗し難いことなのです。皆さん、大丈夫ですか？私は大丈夫じゃありません。(笑) それでは 妻のことを少しだけ話しましょう。妻の

皆さん、皆さんに理解してもらえそうな言い方があればいいのですが。しかし、夫である私たちには、それがわかりません。だからこそ、あのような表情になるのです。本当に理解できないのです。そして、もうひとつの問題は、念のためお伝えしておきます。私たちはあなた方の心を読むことはできません。だから、コミュニケーションと呼ばれるものが必要なのです。そして、夫の場合は、本当にそれを明確にする必要があるので、非常に異なります。しかし、ここが重要です。あなたが詳しく説明するとき、彼らに口うるさく言わないでください。そんなことをしても、あなたのためにはなりません。「箴言」の学びを通して、1節ごとに「箴言」を見ていくまで、実はこのようなことは見たことがありませんでした。聖書の中でも特に好きな書の一つです。しかし、箴言にこう書かれていますね。

「家の中で争い好きの女とプライムリブをミディアムレアで食べるよりも、屋根の上でパンくずを食べる方が良い。」(箴言 17:1、21:9、25:24 参照)

そうですね？ですから、プライムリブは大好きだけど、屋根の上でパンくずを食べる方が、“もっと良い”んです。ちょっと待ってくださいね。それから始まるわけです。次にその箴言を目にしたとき、彼はもう屋根の上でパンくずを食べてはいません。彼は荒野にいるほうがましだと。(箴言 21:19 参照)

家の中で争い好きの女と一緒にいるよりも、ライオンやトラやクマがいるジャングルの中にいる方がいいのです。もちろん「長雨の日に滴り続ける雨漏りは、争い好きな女に似ている。」とも書かれています。

(箴言 27:15) ぽた..ぽた...ぽた...

あなたの思いから家からも追い出し、はるばる荒野まで追いやられていきます。けんか腰になってはいけません。相手には伝わりません。それが私たちのあり方なんです。私たちは何も聞こえません。ある音域、ある音程に到達すると、何も聞こえなくなるのです。電気は消えて試合終了です。叫び声しか聞こえてこないんです。「あなたは絶対に…、あなたはいつも…！ラー、ラー、ラー…！」聞こえるのはそれだけです。ですから、もし夫である私たちが本当にリーダーであり、率先して最初に服従すれば、相手も服従するでしょう。そしてそこで、私たちは話し合うことができ、この問題を解決することができるのです。そして、これも斬新なアイデアです。祈ってみませんか？そうでしょうか？ 妻が夫に「私たちは祈る必要があるわ」と言うのと同じです。それに対して、夫は「そんなに悪いのか？」と答えます。なぜ祈りはいつも最後の手段なのでしょう？ だからといって、まずは主と二人きりになる冷却期間が必要なのかもしれません。なぜなら、もしあなたが「おい、祈ろう！」と言っても、「今はあなたと一緒に祈りたくないわ！」「わかった…」「愛しているけど、今はあなたのことは好きじゃないわ！」「分かったよ。」「だから、ただ主のもとへ行き、僕も主のもとへ行き、そして二人で主のもとへ行った後、また一緒に戻ってこよう。」私は断言しますが、あなたが主の元へ行って戻ってきたときに、このようになるでしょう。「妻に何をしたんだ？」「私の夫に何をしたの？夫はどこに行ったの？あなたは誰？」「ああ、僕はイエスと一緒にいたんだよ。」「そうなの、主は何と仰ったの？」「いや、君が先にどうぞ、主は君に何と仰ったんだ？」それはキリストへの畏敬の念から、自分自身を従わせることです。私はこの3つをまとめて、「成功の為のレシピ材料」と呼んでいます。しかし、あなたは、柔和さと無私と従順さを持って、どうやって議論するつもりですか？ 戦うには2人必要です。「タンゴを踊るには二人必要(両者に責任がある)」という言葉があります。もし、一人がおとなしく、無私無欲で、そして服従していたら、どうされますか？ あなたは…ああ、私はあなたが何をするかわかります。私もやっていることだからです。煽ってください。「さあ、これをやりましょう、やりましょう」「いや、私はこれはやりません。」「さあ、やりましょう！」「いや、やりません。すみません、私は従います。正しくしなければなりません。」「ああ、

でも君は一家の大黒柱だからね。」－「わかっています。」「ああ、でも君には神から与えられた権威があるんだよ。」－「知っています」しかし、このように考えてみてください。パウロの場合もそうですが、もし彼が神から与えられた権威を行使して主張し、ピレモンにこのようにするのはなく、自分がしてほしいことをさせるなんて、想像できますか？ 子どもに「座りなさい」と言ったときのようものです。彼らは「外見は座っているが、内面では立っている」かのようです。あなたはそうしたいですか？ そうしたいですか？ 「私は妻を服従させます。」本当にそうしたいのですか？ ああ、そういうことですか。愛からではなく、力づくでそうするのですか？ それはうまくいきますか？ これこそが、パウロがここでしたことであり、パウロがここでピレモンにしたことの理由なのです。そして、彼がこの兄弟をとっても愛していたことを知らなければなりません。そして、その気持ちはお互いに通じ合っていました。パウロとピレモン、そして今度はオネシモが登場します。そして、ピレモンの側にもオネシモに対する恨みや苦しさ怒りがあったことでしょう。しかし、パウロが彼をキリストに導いたことで、これが大きな変化をもたらしたのです。私がピレモンであれば、「本当に彼は救われたのか？ 私は彼を許さなければならぬ。和解しなければならぬ。」私たちの肉には何かがあります。「自分の肉の内には善が住んでいないことを知っています。」とパウロは言いました。(ローマ7:18 参照) ある翻訳では「私の肉の中は、徹底的に腐っている。」と書かれています。「私の肉の中には良いものが住んでいない。」私たちの肉にはアドレナリンや怒り、プライドを刺激するものがあります。それが糧となり、成長していくのです。しかし、あなたが柔和で、無私の心で服従するとき、聖霊の力を借りなければなりません。そして、聖霊の実は愛です。だから、パウロが命じたからではなく、イエスへの愛とパウロへの愛のために、ピレモンはこれを実行しようとしているのです。そして、想像できますか？ この和解の場に立ち会いたかったですね。私は涙を流したことでしょう。このことが、使徒パウロをどれほど祝福したか想像できますか？ それは私たちが望んでいることではないでしょうか？ 聖霊の実とは愛です。それは強制せず、無視せず、要求せず、命令しません。違います。そして、最後の締めくくりに真実を伝えると、いざとなったら、その人には親切に伝えてもらいたいものです。なぜなら、仮にあなたが逆の方法で、その人を無理矢理にでも自分の思い通りにするなら、その実は苦いものになるでしょう。だからこそ、ヘブル人への手紙には「苦い根を持たないように」と書かれてあるのです。(ヘブル 12:15 参照) なぜなら、それはあなたを壊すからです。それはあなたを汚します。それはあなたを破壊するでしょうほんの少しの恨みを発芽させて芽を出してしまえば、それは苦い実となります。これを共有しなければなりません。これは聖霊によるものです。ご忍耐ください。これが最後です、いいですか？ アヒトフェルという男がいました。これはダビデの右腕でした。そして彼が話すとき、それは神の託宣であったと言われています。まるで、神自身がの神の御言葉を語られているようでした。ダビデが最も信頼していた助言者アヒトフェルです。皆さんは、ダビデのことをご存知ですよ。彼は、バトシェバと姦淫し、彼女の夫ウリヤを前線に立たせて殺害しました。軍司令官のヨアシユは、妊娠を隠そうとして彼を殺害します。彼は自分が逃げ切れと思っています。約1年が経ち、まさに聖霊の型である預言者ナタンが、ダビデと対峙して「あなたがその人だ」と言いました。(第二サムエル記 12:7 参照)

彼は悔い改め、神は彼を赦され、彼からその罪を取り除きました。ダビデの何が興味深いか知っていますか？ 彼は二度とそのようなことはしませんでした。それは、真の神の悲しみであり、真の悔い改めにつながりました。彼は、その後の人生で二度とそのようなことはしませんでした。しかし、その結果、彼は確実に一生苦しむこととなります。そこで、息子のアブサロムが彼に反旗を翻します。こんなこと想像で



きますか？ 愛する自分の息子が、自分を殺そうとするなんて。それがアブサロムでした。そして、ダビデ王を殺すためにアブサロムのそばにいるのは誰か？アヒトフェルです。「何ですと？彼はダビデが最も信頼する助言者だと思っていました。」ええ、でもこうなってしまいました。このバトシェバは、結論から言うと、アヒトフェルの孫娘でした。(IIサムエル記 11:3、23:34 参照)

彼は、この恨み、怒り、苦しさを心に秘めていました。そして、アブサロムから来るであろう連絡を待っていました。そして、アブサロムが彼に連絡して計画を伝えた途端、彼はすぐに実行しました。(IIサムエル記 15:12 参照) そして、彼の結末を知っていますか？ 良い結末にはなりません。結局、彼は自ら命を絶ってしまいます。アヒトフェル。(IIサムエル 17:23 参照) それが苦みの結末です。発芽させてはいけません。根絶やしにしてください。根絶やしにしてください。そうしないとあなたの人生を破壊してしまいます。もし、あなたがそれを抱いてしまったら、それは単に危険だけでなく、それは致命的です。致命的です。さて、これが最後の最後です。柔和な態度で無私無欲に身を委ねることは、自由にされます。まるで(ため息をつく)ようなものです。なんでもっと早くやらなかったんだろう？ その理由は、聖霊がすぐそこにいて、「これが道です、あなたはそこを歩みなさい。」と仰っているからです。これは私と聖霊の間では良いことです。「今から私がすることを見ていなさい。何をするか見ていなさい。」「私は奇跡を起こします。あなたが私に任せるなら、私はこの状況であなたの関係に修復をもたらします。私が言っても信じてもらえないようなことをします。ただ私に任せなさい。」しかし、私たちは神の祝福の御手を、頑固さと頑迷さと傲慢さの縄で縛り、自らを危険にさらしているのです。従順になりましょう。イエスの名の下に、より崇高な道、よりへりくだった姿勢を取りましょう。お立ちください、祈りましょう。愛する天のお父様、少し難しい言葉だとは思いますが、私たちの人生に必要な良い言葉です。ああ、私たちがあなたのようになるために、イエスよ。ああ、私たちが謙虚さと柔和さ、従順さ、無私無欲の心を知ることができますように。主よ、私たちがこの礼拝を終えてそれぞれの道を歩むとき、この問題に関して今日私たちの人生に語られたことを、私たちの残りの一日、そしてこの週に持ち帰ることができますように。そして、あなただけができるように、それを現実のものとし、機能させてくださいそうすれば、私たちがここを去って、ああ、今の御言葉は良かった、罪の示しがあったと思っても、そこから立ち去って、何の効果もないまま、自分の道を歩むことにならないでしょう。主よ、聖霊が私たちの心の奥深くに自由に働いてくださるよう祈ります。主よ、感謝します。イエスの御名において、アーメン。

---

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7